令和３（２０２１）年度　御船町立高木小学校　学校便り

高き志【こころざし】

目指す学校像
地域とともにある
勢いのある学校

No.20（R3．10．4発行）文責 校長 福田雅也

学　校　文　化

（前略）私が思う高木小の良いところは、男女年齢関係なくみんなが仲良いところ、思いやりの心を持っているところだと思います。このような高木小の良いところを活かして、みなさん6年生が中心となり、さらに良い学校にしていってください。そして、高木小の卒業生で良かった、高木小大好き！とみんなが思える高木小学校にしていってください。
　いつまでも高木小のこと、皆さんのことを応援しています！

この文章は、現在中学校2年生になる本校のある卒業生が、6年生へ書いてくれたメッセージのまとめの部分です。6年生が道徳で「ぼくたちの学校」という学習をする際、担任が卒業生に書いてもらったものから抜粋したものです。とても力強く思いのこもった、素敵な文章です。

私が校長として最初に赴任した学校は、阿蘇外輪山上、大分・宮崎両県の県境に面した僻地の学校でした。ほとんどが草原や山林のとても広い校区から全校児童30名程度が登校していました。一つの学年は5名前後で、学級も学校も家族のような雰囲気がありました。そんな雰囲気の中、「何事にも一生懸命に取り組む」「人任せにせず、自分の役割やできることを頑張る」「上級生になったら、全員が学校のリーダーとしての自覚がもてる」「下級生は、上級生からの指導を素直に受けそれに応えようとする」、このようなことがしっかりとできていたのです。その様子から私は、この学校には確実に「学校文化」が根付いていると感じ、学校便り等で保護者や子どもたちに伝えていきました。
「学校文化」という言葉については、いろいろな捉え方があり、定義として定まったものはないようですが、私としては、大まかに次のように捉えています。

「教師と子ども」「学校の歴史と伝統」「地域の方々と環境」等によって育まれる、
学校独特の雰囲気や校風

その後赴任した本校も含む学校では、「学校文化」といえるまでの雰囲気や校風をあまり感じることができず（多くの小学校がそうだと思います）、この言葉はそれ以来使っていませんでした。しかし、最近の高木小の雰囲気、そして今回の卒業生からのメッセージを読んで、今回「学校文化」について触れてみようと思うことができました。今、高木小には「学校文化」が生まれつつあるのではないかと思えるのです。卒業生のメッセージの中には「高木小の卒業生で良かった、高木小大好き！とみんなが思える高木小学校」という文章があります。そして、学校評価アンケート結果では、保護者の方々、子どもたちのどちらも「高木小でよかった」「学校が楽しい」という項目で高い数値となっていたことは、これまでもお知らせしてきたとおりです。また、1学期末のアンケート結果では「他者意識」に向上が見られ、卒業生の記述にある「思いやりの心を持っているところ」と共通する部分を感じます。「男女年齢関係なくみんなが仲良いところ」は、ホームページでお知らせしている日頃の子どもたちの様子から、保護者の方々にも伝わるのではないかと思います。
まだまだ「学校文化」と言えるものではないかもしれませんが、この状 況が続けば、きっと学校文化として育てていくことができるのではないかと思えたのです。

6年生は、道徳「ぼくたちの学校」の授業後、卒業生に対して下のようなお礼の言葉を送っています。

・ぼくは、自分のことだけではなく下級生や他の人のためにも動けるようになりたいです。
・委員長としてがんばろうと思います。この高木小は私達に任せてください。
・私も思いやりをもって、みんなで頑張っていきます。

とても頼もしいお礼の言葉です。この6年生から5年生・4年生につながり、勢いが出てきた高木小学校に「学校文化」が育っていくことを心から願っています。